

京都府立医科大学第一内科学教室

*First Department of Internal Medicine,
Kyoto Prefectural University of Medicine*

昨秋、創立 125 周年を大学をあげて祝いました京都府立医科大学は、京都御苑の東隣、鴨川に面した古都京都の中心部に位置します。春の葵祭、夏の大文字五山の送り火など、全国的に有名な京都の風物詩を病窓から楽しめます。

古くは明治 5 年(1872 年)、門跡寺院のひとつ青蓮院内に仮療院として設立され、以来時代とともに医学校、医学専門学校などを経て、大正 10 年(1921 年)に医科大学となり現在に至っています。この過程で大正 15 年(1926 年)に初代飯塚直彦教授が就任されて第一内科学教室としての基盤が確立し、糖尿病・内分泌の領域を中心に発展を重ねてきました。昭和 53 年に現在の近藤元治教授が 4 代目の教授に就任され、今年が開講 20 周年に当たります。その間、医局員も 200 名をこえる大所帯となり、従来の糖尿病・内分泌領域にとどまらず、内科各領域の診療、研究に教室をあげて日夜取り組んでいるところです。

診療 内科領域全般にわたる診療体制を組み、糖尿病・内分泌・肥満・循環器・呼吸器・膠原病・血液疾患・消化器・アレルギーなどの専門外来を設け、京都府下はもちろん近隣府県の関連病院とも連携して面をカバーできる地域医療のひとつの核として機能しています。

研究 診療と密着した 10 あまりの研究グループがあり、おたがいにオーバーラップ、他教室、他施設との協同研究など、多彩で活発な活動をしております。I 型糖尿病の病因、糖尿病性腎症の成因、糖尿病・肥満の遺伝子解析とそれに基づく治療法の開発、フリーラジカル反応に基づく消化器病変の解析、癌治療へ応用、悪性腫瘍・膠原病に対する免疫療法、遺伝子治療についての基礎研究、各種疾患の補体と制御蛋白、PET を用いた心筋血流、糖代謝、血液幹細胞の分化・増殖など、多岐にわたる基礎的・臨床的研究を行っています。

教育 研修医のときから内科学会認定医・専門医をめざし、その上で内科領域の各学会の認定医・専門医を少なくともひとつは取れるように指導しています。また研修医の時から、プライマリーケアが全員できるように、その一環として研修医全員が麻酔科にローテーションしています。大学院は現在 16 名、それ以外の人も含め毎年 5～6 名が国内外、主として米国の大学、研究施設に留学しており、国際学会での発表も年間数 10 題を数え、内外との交流を図っています。

(加藤治樹)